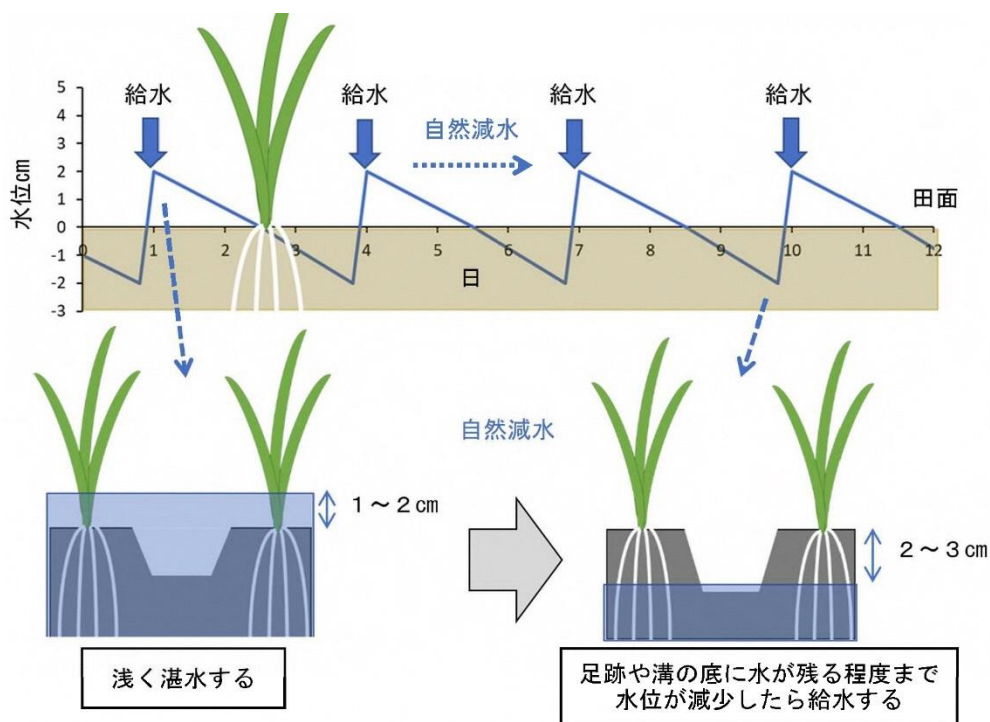


出穂期以降も適切な管理で高品質米づくり！

- ☑ 出穂後も水尻を止めた状態でかん水と自然減水を繰り返す飽水管理
- ☑ フェーン現象や高温が予想される場合は速やかに湛水
- ☑ 積算温度と籾の黄化程度を確認し、適期に収穫
- ☑ 稲わらの秋すき込みは、遅くとも10月中旬までに実施

1 出穂後の水管理

- (1) 可能な限り出穂期の25日後まで飽水管理を継続しましょう。早期落水すると、登熟不良により未熟粒が増加し、タンパク質含有率の上昇を招き、食味・品質の低下につながります。
- (2) 出穂期の遅いほ場では、地域の最終通水日に確実にかん水し、土壤水分を確保しましょう。
- (3) 台風等によるフェーンや異常高温が予想される場合は、水分の蒸散を防ぐためフェーンが発生する前から湛水して、稲体の水分ストレス軽減に努めましょう。
- (4) 農業用水は限りある資源です。地域全体で大切に使いましょう。



図：出穂後の水管理（飽水管理）のイメージ

※ほ場の乾かし具合や飽水管理の期間は、土壤条件に応じて加減しましょう。

2 適期収穫

(1) 出穂後の積算温度による適期のめやす

- ・ 出穂後の積算温度のめやす（平年）は、コシヒカリは1,000℃、早生品種（五百万石、こしいぶき）は975℃です。
- ・ 登熟期間が高温条件（※）になった場合は、積算温度のめやすを50℃早めます。
（※）出穂期の5日後から20日間の平均気温が概ね26℃を超える。
- ・ 積算温度は一つのめやすとして、必ずほ場で籾の黄化率を確認してください。

<出穂期と収穫期のめやす>

積算気温の収穫適期が収穫のピークとなるよう、早めの作業計画を立てましょう。

品種名	地域	出穂期 （※1）	登熟期間の気温			
			平年		高温年	
			積算温度 （℃）	収穫期のめやす （※2）	積算温度 （℃）	収穫期のめやす （※2）
コシヒカリ	平坦地	8月4日	1000	9月12日	950	9月7日
	高標高地 （400m）	8月9日	1000	9月19日	950	9月14日
新之助	全域	8月12日	1050～ 1100	9月24日～ 9月27日	1000～ 1100	9月19日～ 9月23日

（※1）出穂期：コシヒカリは五日町、土樽の各調査ほの本年値、新之助は山谷の調査ほの平年値

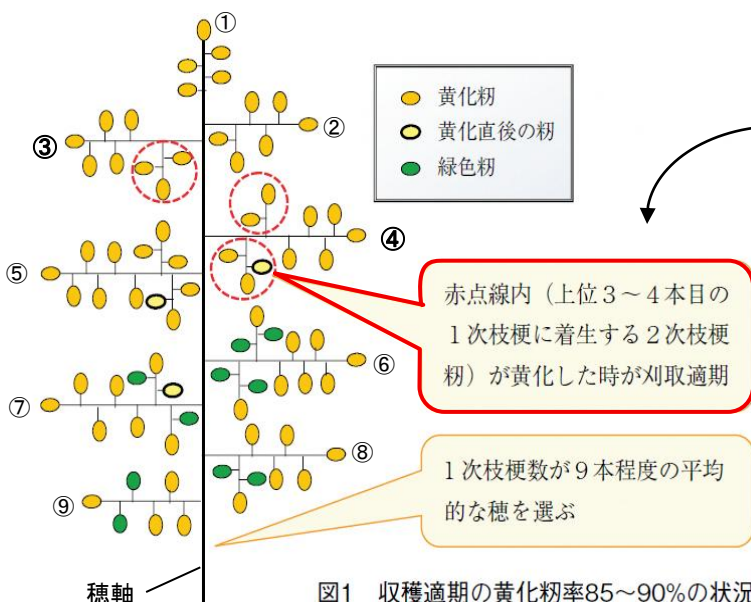
（※2）収穫期のめやす：平年は令和3～7年の平均気温、高温年は令和5年の平均気温から算出

本年の積算温度表は、右記2次元コード先のホームページに掲載しています
ので、収穫期のめやすの参考としてください。
また、現地の積算温度計で積算温度が確認できます。



(1) 籾の黄化率による適期判断

早めには場全体を観察し、籾の黄化率が85～90%程度になった時期に収穫を行いましょう。茎葉や穂軸は青くても籾は成熟している場合がある等、品種特性や栽培条件によって茎葉の色は変化するので、収穫適期は必ず籾の黄化率で判断しましょう。



10穂程度調査し、8本以上が該当すれば刈取り適期。

注）2次枝梗の多少や気温などの条件の違いにより、積算温度によるめやすと黄化率によるめやすに差異が生じる場合があります。必ず籾の黄化程度を確認して収穫判断しましょう。

図1 収穫適期の黄化籾率85～90%の状況
（富山県水稻栽培指針から引用）

3 適正な乾燥・調製

- (1) 毎時乾燥水分が 0.8%を超えると胴割米の発生が多くなるので、超えないよう注意しましょう。また、異常高温・フェーン現象の中で収穫した場合は、毎時乾燥水分が 0.5%以下になるように送風温度を低く設定しましょう。
- (2) 成熟期のばらつきや倒伏等で水分ムラが大きい場合は、胴割粒の発生を軽減するため、水分 18～20%になったら一旦乾燥を停止し、半日程度貯留して水分ムラを解消した後、再乾燥しましょう。貯留するため乾燥を一旦停止する際は、通風循環で穀温を冷ましてから停止しましょう。
- (3) ふるい目は 1.90mm 以上を使用し、整粒歩合の高い米に仕上げましょう。

4 土づくり

- (1) 堆肥を施用すると、土壌の保肥力や保水力の改善につながります。以下の表をめやすに施用しましょう。ただし、排水不良ほ場や潜在地力が高いほ場では施用量を減らしましょう。

堆肥の種類	稲わら堆肥	牛ふん堆肥	オガクズ入り 牛ふん	豚ふん堆肥
施用量の めやす (/10a)	1 ～ 2 t	1 t	1 ～ 2 t	0.5 ～ 1 t

- (2) 稲わらや籾殻の秋すき込みは、堆肥施用と同等の土づくり効果が期待できます。

◎春にすき込むと温室効果ガスであるメタンが発生しやすくなり、根腐れの原因となるおそれがあります。

＜施用のポイント＞

- ・ 籾殻はケイ酸含有率が 20%程度あり、10a 分の籾殻を水田にすき込んだ場合、ケイカル約 60～70kg 分のケイ酸成分量に相当します。
- ・ すき込み時の耕深は 5 cm 程度の浅めとし、土壌とよく混和しましょう。
- ・ 湿田や排水が悪い水田は排水溝を作り、表面水を排水しましょう。

お問い合わせ：普及課 作物担当 TEL 025-772-3337 Fax 025-772-2612

普及指導センターからの稲作情報について、配信不要の方は問い合わせ先まで連絡ください